

【一糸のルーツと経歴】

先祖は、ノロクメ（ノロを束ねる神官）を出す一族でした。ノロクメは、琉球王に任命され、島を守ると同時に、ユタ（靈能者）の降ろした靈言を見極める役でもありました。琉球王からいただいた御神名はテイノナヨクラ・ツキノマシラギと言います。

系米富は、天明の飢饉で廃村になった村（糸木名）を再建し、その後の一族は繁栄しました。戦前は、奄美群島（奄美大島、徳之島、沖永良部島、加計呂麻島、喜界島、与論島）第一の大地主でした。かつて一族の土地であった徳之島空港の地下に縄文遺跡（以下）があることが確認されています。（参考 奄美新聞記事：<https://amamishimbun.co.jp/2020/07/23/26170/>）

戦後、一族は島を出て東京を中心に活動しました。系光家は東大法学部を出て国税庁査察部長になり、また息子、系重家も東大法学部を出て大蔵省に入省しました。親子で東大法学部⇒大蔵省という流れは、これまで無いと聞いています。

また光家の弟、正敏はフルブライト奨学金で米国に留学、その後、弁護士となりアメリカの占領下にあった奄美群島を本土復帰させる為に尽力しました。東京から遠く離れた奄美群島の人間でも中央で仕事できたのは、日本の教育が日本列島の隅々まで行き渡っていたことを意味していると思います。

一糸のルーツは、源氏と言われ、源為朝が沖縄に琉球国を建国した一族ではないかと想像しています。事実一族が大切にしている所には初代琉球王として源為朝の名が記されています。系が一糸になったのは、私の父が字画を研究し一糸にしたものです。この姓は法務省に認められています。

米富以前は馬根（ばね）村の按司屋敷に住んでいました。馬根（ばね）とは、マーネ（うまい米）と言う意味です。

私の母方は、内藤の姓で東京に暮らしていました。祖母の姓は「山戸（やまと）」と言い、三重県伊賀上野で、皇室に献上する酒「富士政宗」を造っていました。山戸（やまと）の音霊にホツマとの縁を感じています。

私は、早稲田大学政治経済学部経済学科を卒業後、日本証券金融株式会社（準国営会社）に入り、その後妻の父の会社（粉ミルクの製造）を引き継ぎ、71歳まで経営していました。会社経営中にホツマツタエに出会い、普及のためにホツマ出版株式会社を作りました。

【親子2代にわたる快挙（一族の話）】

私の一族は、徳之島で生活していましたが、米軍に占領されたため、本土に拠点を移しました。

一族の中で、徳之島で生まれた父と東京で生まれた子が、親子で東大法学部を卒業した後、共に大蔵省（今の財務省）に入省したことがありました。東大法学部⇒大蔵省と言うコースは、文系の中でのTOP OF THE TOPです。父はマルサのトップ国税庁査察部長となりましたが、残念なことに息子は若くして天に帰りました。

このことが幸せかどうかは別にして、本土から遠く離れた地で育った人間でも、こうしたことを成し遂げたことを一族として誇りに思います。



小学六年生の時に中村天風先生の夏期合宿に参加しました。前列三段目一番右、日に焼けた子供が私です。

上記、奄美新聞記事は
こちらからご覧下さい。

